

令和元年度

第2回駒ヶ根市総合教育会議

会 議 録

駒ヶ根市教育委員会

令和元年度第2回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

令和元年8月8日（木曜日）
駒ヶ根市役所本庁舎2階大会議室
午後4時00分 開 会

1 あいさつ

2 報告事項

- ・第1回会議協議内容の状況について

3 協議事項

(1) 3カ年実施計画（令和2年度～令和4年度）について

- ・第1次駒ヶ根市教育振興基本計画（教育大綱）について
- ・急激な少子化の状況について

小中学校児童生徒数の推移、保育園の入所児童数

- ①少子化の総論について
- ②小中学校の施設について
- ③保育園等の施設について
- ④竜東学校給食センターについて

(2) その他

4 その他

次回総合教育会議 開催予定：11月

内容：令和2年度産について

出席者

教育委員会

教 育 長	本 多 俊 夫
教 育 長 職 務 代 理 者	下 島 公 平
教 育 委 員	福 澤 惣 一
教 育 委 員	唐 澤 浩
教 育 委 員	氣 賀 澤 知 保

市長部局

市 長	杉 本 幸 治
総 務 部 長	小 平 操
民 生 部 長	中 村 竜 一

事務局職員

教 育 次 長	北 澤 英 二
子 ど も 課 長	北 原 純
社 会 教 育 課 長	入 谷 吉 博
教 育 総 務 係 長	山 本 和 重
教 育 総 務 係	吉 澤 啓 太 郎

会議のてんまつ

議事日程記載のとおり

午後4時00分 開会

○北澤教育次長 皆さん、こんにちは。(一同「こんにちは」)

総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。ただいまから令和元年第2回の駒ヶ根市総合教育会議を始めたいと思います。進行は教育次長の北澤で行います。よろしく願いいたします。最初に杉本市長よりあいさつをお願いします。

○杉本市長 どうも皆さん、こんにちは。(一同「こんにちは」)

今日は第2回目の総合教育会議ということで教育委員さんにお集まりいただきまして、ありがとうございました。

今年に入ってから学校等の状況ですけれども、施設整備の方では、去年の今よりちょっと前ですかね、猛暑で学校の授業が大変ということで、エアコンを入れる準備をしてきましたけれども、おかげさまで予定した事業は全て完了しております。今年使ってもらいたいと思って急ピッチで行ったんですけれども、夏休み前は涼しくて使わなかったようですね、1回も。ただこれからも猛暑が続くのかなと思いますけど、おかげさまでこちらの方は全て終わっております。

また、子どもたち、特にスポーツの方で頑張っていていただいておまして、北信越大会などに参加する子どもが増えて、今回また補正予算で遠征費等の補助をさせていただきます。うれしいことかなと、そんなふうに思っております。ホールにも飾ってありますけれども、駒ヶ根市出身の子どもさんたちがインターハイなどにも出ていて、今までになく多い感じがします。本当に子どもたちが活発になってきているのかなと、そんなふうに思っていますし、学力の方でも標準学力調査等を中心に先生方が頑張っていていただいておまして、今回の国の学力調査の方も初期で目指していた平均点80%以上が確保されたと聞いております。

そうした中で心配なのは、去年もお話させていただきましたけど、少子化のことでございます。去年の1月から12月までに生まれた子どもが240人ということで、その前の年が237人でしたかね。少子化に関しては、私たちが市の重点施策として、保育料の軽減、さまざまな少子化対策をしておりますけれども、残念ながら実効性につなげていないというところが現実でございます。そういうことになりますと、子どもたちが行く保育園、幼稚園の問題、そして小学校の問題、中学校の問題と全てに連動していくわけでありまして。今まではある一定の子どもさんがいるという前提で計画してきたんですけれども、少子化を見据えていろいろな取り組みをしていかないといけないのかなと、今そんなふうに思っています。ぜひ、また教育委員の皆様方におかれましても、少子化を踏まえて、これからの特に施設整備関係になりますかね、そういう点について、ご議論いただけたらうれしいと思っております。今日もいくつか、そのことも議題に入っていると思いますので、ぜひそんな視点で子どもたちにとっていい環境整備をしながら、かといって行政としての過剰投資にならないようにしていかないといけないのかなと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

学校以外のことについても、今コンパクトシティということで極力集約化したいということなんです。

それから、地域交流センターですけれども、今進めさせていただいております。一つは、オリ

ンピック特需等によって鉄筋をとめる高力ボルトの需要が高まっていて、なかなか調達できないということですので、大体3月くらい遅れそうという状況で進んでおります。午前中に進捗状況を聞いたんですけれども、それ以上の遅れはないのかなということですので今進めております。あとは全て順調にいらっていると聞いておりますので、ご報告をさせていただきます。

それからまた、3カ年実施計画等も進めていこうと思っております。その中で教育委員さんたちの意見も反映したいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

○北澤教育次長 続きまして本多教育長からごあいさつをお願いします。

○本多教育長 改めまして、こんにちは。(一同「こんにちは」)

お暑うございますという感じでございますが、8月の5日6日に広島の平和祈念式典に赤穂中の2年生4名、東中の3年生2名、市から私、議会の議長さん、区長会長さん、事務局の10名で行ってまいりました。

子どもたちの様子なのですが、前日、広島ということで広島焼を夜食べたわけですが、どんなように作られるのかっていうのを初めて見るようで、ミーアキャットのようにこうなって、全然微動だにしないですと見て、こっちで「やいやいすごい集中力だなあ」と構っても、すごい集中力でありました。食べた後もとてもいい顔をしておったわけですが、次の日には、その延長で式典には大変集中し、特に小学生の平和への誓いのときには進んでメモしながら、雨の中、献花にも参加してきました。記念館では、もう本当に力いっぱい、女の子なんかは端から写真を撮っているような、棒立ちになるくらいしっかりと見学をしていました。本当にレポートが楽しみです、9月の駒ヶ根市戦没者・公務殉職者追悼式のときに2名ほどが発表すると思っておりますけれども、今から楽しみであります。

このように積極的な内から育つ前向きな子どもさんもおりますけれども、今後も、駒ヶ根市としても、そういう子どもたち育成のために人的、物的な環境整備を整えていただくためにも、さまざまな角度から、またグローバルな立場から思いをこの場で語っていただきながら、ともどもに今後の駒ヶ根市の子どもたちのためにどうすべきかを考えていただければなあと思っております。

お世話になります。よろしく申し上げます。

○北澤教育次長 それでは、お手元の次第に従いまして会議を進めていきたいと思っております。

最初に、報告事項として第1回の総合教育会議でご協議いただきました概要につきまして、1ページから4ページに添付してあります。内容につきましては、令和元年度教育委員会の主要事業であります。進捗状況につきましては、定例教育委員会等におきまして確認いただいておりますので、説明は省かせていただきます。

続きまして、協議事項につきましてお願いいたします。

第4次総合計画に基づきまして策定されました教育大綱に沿って事業を進めておりますけれども、本日の総合教育会議では、向こう3年間の事業計画、実施計画であります3カ年計画で検討すべき事項と、また少子化の部分について意見をいただければと思っております。

参考までに資料の5ページに3カ年計画実施に当たっての目標の項目だけ載せてあります。

そのほかに別冊で、第1次駒ヶ根市教育振興基本計画（教育大綱）としておりますけれども、過去の5年間、平成27年度から令和元年度の途中まで、実施状況等について記載をしてあります。

す。この資料につきましては、今までの取り組みの状況でありますので、これは省かせていただきます。

それでは、最初に急激な少子化の状況につきまして関係する統計資料を付けてありますので説明をさせていただいて、議論いただく資料とさせていただきます。

内容については子ども課長の方で説明をお願いします。

○北原子ども課長 それでは、少子化の現状等につきましてご説明させていただきます。

小学校でございますけれども、今年、令和元年の児童数は5校合わせまして1,741名でございます。そこから、この3月までに産まれましたお子さんのお住まいの地域をもとに学校ごとに今後の想定をさせていただきました。令和7年のところでございますが、全体としては1,492名になるということで、学校ごとに見ていきますと、赤穂小学校がことしとほぼ同程度の641名と想定をされます。それ以外の学校につきましては、いずれも減少するという見込みでございます。中でも大きく減少の見込まれるのが、南小学校が25.8%の減、中沢小が27.1%の減、東伊那小学校が39.2%の減ということが想定されます。赤穂小学校につきましても、減り幅は今年と比べましてほぼないところではございますが、平成16年と令和7年と比較をいたしますと18.7%の減少となることが想定されております。

中学校につきましても、赤穂中、東中、それぞれ減少し続けておまして、今年につきましては、赤穂中学校が731名、東中学校が183名、合計914名となっております。こちらも同様にこれまでの産まれたお子さんのお住まいの地域から推測をいたしますと、令和13年には赤穂中学校が611名、東中学校が116名、合計727名となります。727名というのは、今年の赤穂中学校1校の生徒数とほぼ同程度となるというものでございます。

次に保育園、幼稚園の入所数の推移でございますけれども、平成21年の1,101名から平成30年には1,027名ということで減少してきておるところでございます。ただ、ここ数年のところは大きく減っていないという状況でございます。3歳以上児につきましては、やはり少子化の影響で毎年減り続けております。平成21年のときの958名から30年が821名ということで減少しております。減り幅でマイナス137人、マイナス14.3%ということであります。一方で、3歳未満児、こちらが平成21年の143名から平成30年の206名、こちらはプラス63人、44.1%の増加という状況でございます。

こういった状況の中で、保育園の園児数全体としては、このところ大きく変動していないということでございます。

少子化につきましての状況については以上になります。

○北澤教育次長 ありがとうございます。

ただいま説明をさせていただきました資料も参考にさせていただき、意見交換をしていきたいと思っております。

○下島教育長職務代理者 先ほどの市長さんのあいさつの中に全て含まれておるわけですが、少子化の問題が、ここに記されております小学校、中学校の問題、保育園、そしてまた竜東の給食センター、全て少子化が絡んでくるということでもあります。したがって、教育委員会を軸にといえども、市役所関係部署を横断的なプロジェクトで、これからの3カ年計画はもちろんでありますけれども、さらに中長期的な、あるべき姿といいますか、方向性をつくり上げて、数字

をもって市民の皆さんにもご理解をいただき、少子化対策を打っていくということがやっぱり喫緊の課題じゃないかなあとと思います。したがって、中学校問題についても長年時間をかけて検討してきておるわけでありましたが、今までの延長線上の理論だけでなく、これだけ少子化が数値化されてはっきりしておる中では、相当大胆な提案、構想を練っていく必要があるんじゃないかなあとと思います。

○杉本市長 本心に思った以上なんで残念でしょうがないんですけども、このまま行って過剰投資しちゃうと、後年の皆さんが負担することになっちゃうんで、そういうことも考えれば、今ご提案いただいたんで、慎重に一回、プロジェクトなんかをつくりながら、また検討していくっていうことも、そういう時代が来ているのかなと思います。

○福澤委員 15年前だったか16年前だったか、当時、中学校の再編の問題で協議会があって私ちょうど役員でした。当時の状況は、赤穂中学校が1,000人くらいで、東中学校が減ってきちゃって、それで平均化に近づけるとというのが最初の目的だったんです。学校が大き過ぎて問題が出ちゃうっていうことを1点目に出して、少子化ということはそのときには言わなんだよね。あのときに一応答申は出して決めたわけですけども、先ほどの話の中で、中学校については、今は2つあって、新しくもう1校をつくり直すか、現状でいけば、駒ヶ根市で1つでいくか、選択肢は3つくらいしかないんですよ。それ以外にいい方法が何かあればいいんですけど、あれから15年たって、これから先、あと10年先の見通しが立っておる以上は、もう、先ほどの話じゃないですけど、方向性を早目に決めていかないと、市の財政のこともありますし、世の中の流れは公共施設の統廃合つう動きになっておりますので、駒ヶ根市も遅れをとらないように、やっぱり子どもに関わることでですけど、減らしゃいいっていうもんでもないし、その辺はもうちょっと詰めて、ある程度の道筋を今から決めていかないと、あれよあれよという間に過ぎていっちゃうと、そういう状況じゃないかなあとというふうに私は思っております。

○杉本市長 僕も市長になった理由は子どもさんが大きな問題だったんですよ。当時の答申っていうのは、赤穂東小学校の通学区を全部東中にして新しい学校っていうことだったんですけども、通学区を変更することに関しては、地区の説明会をやったんですけどなかなかご理解が得られなくて、町2区の皆さんにお願いする中で8町内と13町内の皆さんが今通学区の変更をさせていただいて東中に行っています。あとのところについては、まず道路を整備してくれなきゃっていうことがあったんで、今、歩道をつける整備、郷社線や古田切線をやったりして、歩道をようやくそこまで、ここまで来るだけにこれだけ時間がかかっているんですよ。それが条件っていうことがあったんでやってきて、当時は誰一人少子化になるなんていうことは頭へ入れないでやってきたと思うんですね。

その間、特に私になってからも、最初、農地転用の話が実は大きな課題になって、農業振興を図るっていうことで特に下平等に国が集中的に農地整備した所については、公共施設であっても、農地転用相ならんということになってしまったと。その次に、学校の耐震化が話題になってきて、そんなことよりも耐震化をまずやれと、新設校については補助ができない、農地転用はできない、新設校に対しては補助ができない、まず耐震化をやれということになってきました。そんなことがあったんで、とてもとても物理的にそれをクリアできないっていうのが今までの現状なんですね。

少子化になってきて、今度は国の方が新設校はそれなりの理由がないとなかなか認めてくれない。それが現実となってきてしまっていることもあるんで、今までの取り組みは取り組みとして着実に前回の皆さんの答申を受けて進めてきたかなと思っています。

ただ、その大前提である子どもの数っていうことに関してはあの中になかったんで、もう一回その辺をやはり、今提案いただいたことも頭に入れてやっていかないといけないのかなと思ったりもしています。ありがとうございます。

○唐澤委員 私も中学校のことなんですけれども、もう皆さん地元でずっと長く関わられてきて考えてきた課題なんですけど、私はちょっと違くて、地元はもう全然離れているんで、今まで余り真剣に考えたというか、そういうこともありませんでした。一般の市民で私たちがわかるのは、赤穂東小の一部の人が東中に通っているってということと道がちょっとよくなるってことはわかるんですけど、それ以外の、何か会議を開くとか、そういうことは行われていたんでしょうか、今まで。

○北澤教育次長 会議自体は行われていないんですけど、定例教育委員会の中で少子化について提言をいただいて、今後どうしていかうかという議論は始めてきています。

庁内全体としては、そういったことについてはそんなには進んでいないです。一時的なプロジェクトチームを組んでやっていた時期もあるんですけども、やはり財政的な問題などもありますので進んでいないような状況と、あと、ここへ来て少子化の部分が出てきております。

まず、教育委員会の中でも再度しっかり検討しなければいけない課題かなというふうに思います。

○唐澤委員 先ほどから言われているように、もう答申が出ているんで、それを覆すのはなかなか難しいのかもしれないけれども、市長さんも言われているように、もう一回考え直す時期でもあると感じます。例えば中学校を新しくつくらない場合は状況が変わらないってことなんで、少子化になっても東中学校と赤穂中学校の比率は変わらないと思うんですけども、そういったときの具体的な施策も考えていかなきゃいけないのかなあとは感じます。

○北澤教育次長 教育委員会の中でも同一の認識と、やはり今後どうしていくかっていう具体的な部分を含めて議論をしまして、それを受けて、具体的に市全体の部分でも話し合いができればと思います。

○杉本市長 ぜひ教育委員会の中で今日の議論を踏まえて、そういうような方向性を出していただいて取り組んでいけたらいいのかなと思いますんで、一回教育委員会のほうで詰めてくれますか。

教育委員会の中にも子ども・子育て会議とか、既存の会議がたくさんあると思いますんで、そこらへんとの接点をそこでやるのか、ほかでやるのかも含めて、庁内は庁内で検討しますけれども、まず教育委員会の中で議論を一回してもらってよろしいですかね。

○北澤教育次長 よろしく申し上げます。

今、少子化の総論の中から小中学校の関係まで一緒に含まれる感じですけども、学校の関係では何かよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○北澤教育次長 では、続いて保育園の関係について、少子化の観点で申し上げます。

○**氣賀澤委員** 無償化になって保育園・幼稚園に預ける方もだんだん増え、ゼロ歳児も増えてくるのではないかと思うんですけども、そうすると、未満児さんは部屋も違うふうにしなければならなかったり、保育士さんの数も変わってきたりとか、そういうところがいろいろと変わってくると思います。

また、美須津保育園やすずらん保育園はもうかなり老朽化になってきていて、それを1つにまとめるような感じで新しいものをつくっていくのか、それとも、赤穂南小みたいにどんどん人数が減っていくと余ってくる教室があるので、そういうところに新しく保育園なり幼稚園を一緒に含めてやるような感じにしていくというのもあると思います。今お母さんたちが、古い保育園・幼稚園がこれからどうなっていくんだろう、新しくできるのか、それともまとまっちゃうのかっていう話は結構しているので、その辺はどうなのかなあとと思います。

○**杉本市長** 当初の予定は、美須津と赤穂南が古いで建て替えなきゃいけないのかなあっていうことでやってきたんですけど、ここに来てゼロ歳～2歳がどんどん増えてきて、先ほど見ていただいたように全体は減っていません。

それから、一方で赤穂南小の子どもが減る率、先ほど見てもらったようにものすごく大きいんですよ。学校自体はしっかりした学校なんで、今、氣賀澤さんから言われたように、そういうところの有効活用も可能になってくるのかと思うものですから、やはりそこら辺を含めて、全体で検討すべきかなとは思ったりしています。これからは、いろいろの機能を分担じゃなくて一緒でもいいのかなと思っています。美須津も赤穂南はちょうど52年と49年ですかね。平屋なんですぐっていうことはないかと思うんですが、かといってゼロ歳から、これから多分2歳児が3歳児と同じくらい全入になってくるんですかね。だから、逆にゼロ歳～2歳の教室の確保の方が大変になってくるんで、そういう点では今あるものをいかに使いながらできるかっていうことを、検討することかなと思っています。

あと、下平幼稚園と赤穂南幼稚園は、幼稚園なんでゼロから未満児を預かれないんですよ。幼稚園を保育園に変えれば未満児を預けられるんですよ。だから、そういうことも検討していったらいいのか。今、下平幼稚園のところをつくし園の仮設をやっているんですが、仮設といっても立派なんで、そのまま使えるんですよ。いい機会なんで、幼稚園にするのか、それを保育園にして有効活用するか、それも含めてやっていかないと。また今までと違う形が出てくるんでね、空き教室も出ているんでしょう、今、保育園の。

○**北澤教育次長** そうですね。赤穂南幼稚園は半分ぐらいでやっています。3歳以上児は2部屋を1つにして、半分空いているので、代わりに未満児が増えているのと、そういった部分も使わないと、もしかしたらできないかもしれないし……

○**杉本市長** それも可能性はあるんだよね。

○**北澤教育次長** これからの保育料無償化で、もしかしたら0、1歳2歳が増えてくるかもしれないってことで、昨年度は2歳児が非常に増えまして、非常に苦慮し、対応はしておる状況でありますけれども、それとあわせて、2歳3歳は6人に1人保育士さんが必要で、ゼロ歳だと3人に1人ということなので、保育士の確保も非常に課題となっております。そういう部分もあわせて見据えながら今後の方向を考えていく必要があるかなあとということで、教育委員会の中でももんでいただきますし、子ども子育て会議の中でも意見をいただく中で、全体としての方向を

出していかなきゃいけないし、個別の施設整備の計画もつくらなきゃいけないので、そういったのも見据えてやっていければというふうに考えてございます。

○**杉本市長** この資料の美須津保育園を見てもそうですよね、平成 21 年の美須津の 3 歳以上が 72 人で未満児が 6 人だから両方合わせて 78 人、今は美須津の 3 歳児が 56 人で 3 歳未満が 18 人ですから両方合わせたら 74 人、両方のトータルは変わらなくて、下がどんどん増えていく。教室がたくさん要るほうが増えてきているんで、統合なんていうけど、今のところを活用しないと対応できないかもしれません。ここ何年かって、未満児の皆さんを預けて働きに出る人が増えたっていうことですね。

○**福澤委員** 需要が多くなってきているんだね。1 年くらいはちゃんと見てもらって、預けないほうがいいと思うのが普通だと思うんだけど、そこらへんが、やっぱり仕事をしんと生活が苦しいっていうことで、やむを得ずなんだと思うんですけども、その傾向が増えてくるんだと思いますね。

○**杉本市長** ゼロ歳児は 3 人に保育士さん 1 人ですか。

○**北澤教育次長** そうです。

○**杉本市長** 1・2 歳児は 6 人に保育士さん 1 人なんですよ、基準が。少子化っていうのに対して今度は逆に保育園の方は未満児を預ける人が増えてきているんで、そっちはそっちで待機児童っていうことがないようにしなきゃいけないもんでね。だから、今あるものをまずは生かしたやり方を考えていかないとですかね。

いずれにしても、うちの中の方もいろいろな施設がありますんで、その活用も含めて、検討委員会をつくっていますんで、その中で、そっちはそっちでも検討します。

○**北澤教育次長** 保育園、幼稚園の関係はよろしいですか。

○**氣賀澤委員** はい。

○**北澤教育次長** じゃあ、学校に関係しますけれども、竜東給食センターについてご意見を願います。

○**福澤委員** さっきと同じで、もう能力的にはそういう施設はあるもんでね、新しくつくらんとって。何分以内とか条件的に難しい部分があるんだと思いますけど、今ある施設を有効に使った方が、もう減るばっかなんで。飯島町だっけつくらにゃいかんって言って、つくれなんでおるけど……

○**杉本市長** 飯島は、駒ヶ根で作ってくれないかって、この前、町長に言われて。これから共同でやらないかっていうような提案をいただいたりしていますね。

○**福澤委員** 方向性としてすりゃあ、そういう部分も含めてコンパクトにしていった方がいいような気がする。地元からすると近い方がいいっていうことは昔から言われておるんですけどね。ただ、もうそういう状況じゃないと。

○**杉本市長** 今も竜東給食センターが全く使えないわけじゃなく、当面は使えると思います。さっきの中学校の話と並行していくんで、私は、できる限り東中にいるうちは東中学校で存続すべきかなと思っています。ここ 7～8 年は今のままで行けるんじゃないですかね。だから、それまでは使えるものは使っていた方がいいと。今新しくつくって何億円っていう金をかけるのはちょっとどうかなあと思ったりしているんで。

赤穂南給食センターは、さっき言ったようにどんどん子どもが減っていくんで、あそこ 1,600 食ですか。

○北澤教育次長 1,300 食です。

○杉本市長 1,300 食作るところで今何食作っているの。

○北澤教育次長 今 950 食ぐらいですね。

○杉本市長 さっき見てもらったように、赤穂南小の子どもは 417 人から 100 人減るんですよ、100 人。それで、あと中沢小、東伊那小を合わせて 140 人ですんで、規模的、能力的には大丈夫です。ですから、あとは、さっき言ったように調理の方法だとか時間の問題があるんですか。

○北澤教育次長 そうですね。一応作ってから食べるまでに 1 時間以内っていう実食時間っていうのがありまして、温かいものをということと、あと衛生上の問題もあります。

○杉本市長 だって、長野やなんかの給食センターとかのことを考えたら全然……

○北澤教育次長 あそこは 1 万食以上を 1 カ所でやっています。

○杉本市長 1 万食でしょう。だから、時間、多分そういう課題はそんなに心配しなくてもいいかなあと見ていますけどね。ですから、あと赤穂南給食センターを少し改築して、しっかりした搬送するものをつくったりして検討していけばね、余り慌ててやらなくてもいいのかなっていうような感じがしています。今評判もいいし、竜東は。

○北澤教育次長 竜東給食センターは 42 年たっているんで、やはり古いことは古いです。ただ、中の器具とかを含めて個々に手入れはしたり、変更したりしています。給食が一番おいしいとも言われていて、そして地元の食材を使った、地元に着したおいしいものを作っていたいているのは本当に感謝しているところですけども、施設全体としては、やっぱりそこは考えていかなきゃいけないというような状況でございます。

○杉本市長 何とか子どもが増えてくれればいいと思うけど、なかなかそっちの方の悩みが多くて。この前ちょっと高校のことも含めて話したんですけど、中川、飯島、宮田と少子化が深刻だと言っていましたね。

○北澤教育次長 じゃあ、少子化の関係については、特にこれでよろしいですか。

○杉本市長 今、大体方向性をお聞きしましたんで、いずれにしても中学校も含めて検討するようにしたいと思いますし、施設については庁内でも検討会を開くし、また教育委員会の中で一定の方向性を出していただいたら、それを受けて動きたいと思いますんで、よろしくお願ひしたいと思います。

○北澤教育次長 その他で何かございましたら出していただければと思いますけれども。——いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○北澤教育次長 じゃあ、今日については少子化の内容ということで意見交換をしていただきました。これから 3 カ年計画の策定に入っていきますが、いただきました意見については十分調整をしていければと思っています。

それでは、以上をもちまして第 2 回の総合教育会議を閉じたいと思います。

ありがとうございました。

午後 4 時 35 分 閉会